

防 災 と 減 災 に つ い て (3)

香住丘校区自主防災会

(3) 地震情報と津波情報について

さて前回は地震の概要についてお話ししましたが、今回は地震が発生した時にどのような情報が出されるかお話しします。

気象庁は全国約 1,000 カ所に配置された「緊急地震速報」用の地震計(この近辺では千早に設置されています)を常時監視しています。地震が発生した時は地震計が検知したデータから震源地と地震規模を直ちに割り出し、最大震度 5 弱以上の揺れが起こると判断された場合に、震度 4 以上が予想される地域名が警報として出されます。

先般の熊本地震の時に皆さんも経験されたように、この警報はテレビ、ラジオ、携帯電話等で「**緊急地震速報**」として配信されます。

この「緊急地震速報」から地震の揺れが来るまでの時間は、震源地との距離に依りますが、ほんの数秒から十数秒しかありません。この間に安全避難行動をとらなければなりません。避難行動については次回以降にご紹介します。

また、気象庁は、震源が海底で津波を引き起こす可能性のある地震が発生した場合、震源地、地震の規模などから数値シミュレーションをして津波の沿岸での高さ、到達時間を予測し津波情報として発表します。

(4) 地震の大きさについて

皆さんもテレビなどでお馴染みと思いますが、震度とマグニチュードについてご説明しましょう。

「震度」とは地表で感じる揺れの強さで、震源地に近い程大きな値になります。震度の階級は 0 ~ 7 まであり、震度 6、7 には夫々弱と強があり、全部で 10 階級あります。その揺れの大きさの状況は気象庁発表の添付表のようになります。

「マグニチュード (M)」は地震の大きさそのものを表す尺度です。

M が 1.0 上がるとエネルギーが約 30 倍になります。従って M8 の地震は M7 の地震が約 30 回分同時に起こったことになります。

一般的に M7.8 以上の地震は「巨大地震」と言われ、先の東北地方太平洋沖地震は M9.0 であり観測史上「海溝型超巨大地震」と言われています。

今後 30 年以内の発生確率が 70% と非常に高く予想されている南海トラフの大きさは M 8.0 以上と予測されています。

次回からは地震対策等について述べてゆきます。